

令和 6 年 7 月 1 日現在

機関番号：32631

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00097

研究課題名（和文）近代日本思想史におけるカトリック思想の展開とその影響

研究課題名（英文）The Development and Influence of Catholicism in the History of Modern Japanese Thought

研究代表者

加藤 和哉（Kato, Kazuya）

聖心女子大学・現代教養学部・教授

研究者番号：00243618

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、近代日本思想史の中で、日本のカトリック思想を位置づけ、その意義や影響を明らかにするものである。思想史的研究としては、岩下壮一、吉満義彦、九鬼周造といったカトリック信徒、ないしカトリックと関わりをもった哲学者・思想家の思想と、これに影響を与えた西欧の思想の関係を明らかにした。また、カトリックの代表的知識人であり、優れた哲学者・知識人であっただけでなく、教育、医療・福祉、出版など多岐にわたる業績を成し遂げ、また多大な影響を与えた岩下壮一については、未発見・未整理の資料の発掘と整理を行い、内容の研究をすすめることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本近代におけるカトリック思想の展開は、これまでカトリックの信仰に関わりを持つ人以外の関心を集めることは稀であり、したがってまた広く学術的な研究がなされることもなかった。本研究では、幅広い観点からその思想の展開と影響をとらえ、またそのための基礎資料を整備することによって、これを日本近代思想史、社会史、文化史など様々な研究分野にとって共通の研究課題とする基礎となったと考える。

研究成果の概要（英文）：This study places Japanese Catholic thought in the history of modern Japanese thought and clarifies its significance and influence. As a study of the history of thought, it clarified the relationship between the ideas of philosophers and thinkers who were either Catholics or associated with Catholics, such as Soichi Iwashita, Yoshihiko Yoshimitsu and Shuzo Kuki, and the Western thought which had an influence on them. In addition, we investigated previously unsurveyed materials on Iwashita Soichi, a representative Catholic intellectual who was not only an outstanding philosopher and theologian, but also made a wide range of achievements in education, medicine and welfare, publishing and had a great influence on the field.

研究分野：哲学・思想史

キーワード：日本近代思想史 カトリック 岩下壮一 吉満義彦

1. 研究開始当初の背景

日本近代のキリスト教思想史については、従来主としてプロテスタント諸教派とその宣教活動、及びそこから派生した日本人キリスト者の思想と活動とに光が当てられてきた。これは、プロテスタント諸教派が、当初から日本の知識層への浸透を図る宣教活動を戦略的に展開し、結果として明治以降の思想界・言論界・文学界等に重要な役割を果たしたからである。

一方、カトリック教会は発見された潜伏キリシタンへの司牧に重点を置き、教育や社会活動（孤児院事業、「救癩」事業など）などに一定の貢献をしてはいたが、思想界や文学界においては目立った活動を見せていない。そうした中、ようやく明治後期になってカトリックに接近する知識人・文化人が現れてくる（明治21年生まれの九鬼周造、翌年生まれの岩下壮一、三木露風など）。明治末には、ローマ教皇特使の来日をきっかけに、カトリックの高等教育機関を設置する機運が高まり、イエズス会と聖心会が来日し、男女それぞれの学校を設置した。大正期に入るとカトリックの出版社、新聞社なども設立された。こうした中、昭和期にはプロテスタントもしくは無教会主義からカトリックに移る人々も現れた（田中耕太郎、吉満義彦など）。しかし、こうした近代の日本のカトリック思想やカトリックの文化活動には単発的な研究はあるものの、包括的な研究はなされてこなかった。

2. 研究の目的

本研究は、従来閑却されてきた日本のカトリック思想及びその周辺の思潮に光を当てることで、日本近代の哲学・キリスト教の思想史の読み直しを行い、同時代の西洋哲学や思想との影響関係を明らかにすることである。具体的には、①西洋の影響を受けつつこれへの応答として誕生した日本の近代思想、同じ文脈で生まれた日本独自のキリスト教受容のあり方と関わりについて、考察を深めること、②ラファエル・フォン・ケーベルらを端緒として始められたキリスト教思想研究、中世哲学研究の展開を、日本の西洋哲学受容史の中に位置づけることである。

3. 研究の方法

本研究においては、日本の近代におけるカトリック思想の展開、及び、これとプロテスタントの諸思潮や無教会主義などとの関わりについて、先行諸研究を踏まえつつ、また各分野の専門家による共同研究を通して明らかにする。日本の中世思想研究の出発点であるラファエル・フォン・ケーベルの仕事の意義とその影響について、ケーベルの諸著作ならびにケーベル門下の人々の著作の研究を通して解明する。また、岩下壮一らによる中世思想研究と当時のヨーロッパの中世思想研究（新トマス主義など）との関わりについて、またこれがその後の日本の中世思想に与えた影響について、関連する諸著作、並びに、同時代のヨーロッパの中世思想研究の諸著作を通して明らかにする。

4. 研究成果

思想史的研究においては、研究初年度には、2回の研究会を実施し、まず近代日本思想史全体

の見取り図の中で、キリスト教、カトリック思想をどのように位置づけることが出来るかについての包括的なパースペクティブを得た。特に、近代日本の哲学の主流における教父・中世哲学・神学の軽視、その中で展開された大西祝、波多野精一、岩下壮一、九鬼周造などの神学・宗教哲学の業績についての知見が得られた。継いで、無教会からカトリックに転じ、岩下壮一の片腕として著述活動や教育にあたった吉満義彦が、特に 1937 年以降戦時下体制のもと国策へ対応を迫られるカトリック教会にあって、「霊性の優位」を掲げた意義を明らかにした。第二年度では、岩下壮一思想研究に関する重要な視座を確認し、岩下の中にある「近代批判」の視点、人間的・自然本性に関する形而上学的実在論の擁護、さらには無制限なリベラリズムに対する危惧といった諸側面に注目し、またそこから「社会思想」として岩下の思想を読み解く可能性が提示された。最終年度においては、岩下壮一の哲学と神学とに焦点を合わせ、日本の中世哲学研究の第一世代としての岩下の研究の意義が明らかにし、また岩下壮一によるプロテスタントの教会論批判などの意義と射程を明らかにした。

研究期間全体においては、近代日本思想史におけるカトリック思想の展開とその影響について理解する基本的な見取り図が獲得されたものと考えている。明治から昭和前期におけるカトリックの知識人の影響は社会全体としては決して広範とは言えないが、当時の知的エリート階層における位置づけは相対的には高く、またカトリック知識人たちもまたその次代や社会の課題を認識、要求に応えることを自らに課していた。「外発的な」近代化（夏目漱石）を実質化していくにあたって、西欧の精神を深く理解し、内面化しようとしたカトリック知識人の役割は、日本近代思想史の重要課題であることが明らかになったと考える。

資料的研究としては、①岩下壮一の留学時代の日記の翻刻を行い、その内容を精査し、その交友関係から築いた知的・霊的なネットワークを解明した。②カトリック東京大司教区の所蔵する岩下関連資料の現地調査を行い、所属資料の整理と確認を実施し、リストを作成し、また保存処理を完了した。③本学所蔵の「岩下文庫」（岩下家からの贈書籍）の目録の確認と精査を進め、洋書約 1000 冊の目録の入力を行い、2023 年度より聖心女子大学図書館にて電子的に公開された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 加藤和哉	4. 巻 39
2. 論文標題 岩下壮一研究 「岩下壮一「導かるまゝに」「聖心の村パレー・ル・モニアルより」（解説・注釈）」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『宗教と文化』	6. 最初と最後の頁 7-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 桑原直己	4. 巻 38
2. 論文標題 E・トレルチのキリスト教的社会思想観とカトリシズム	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 倫理学	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 桑原直己	4. 巻 48
2. 論文標題 E・トレルチにおける「絶対的自然法」と「セクト類型」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 哲学・思想論集	6. 最初と最後の頁 53-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 島田由紀	4. 巻 38
2. 論文標題 田中耕太郎の教育勅語への評価をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 キリスト教と文化	6. 最初と最後の頁 37-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 樋笠勝士	4. 巻 54
2. 論文標題 光の美学 R.グローステストと教父パシレイオスをめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 慶應義塾大学言語文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 179-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤和哉	4. 巻 40
2. 論文標題 岩下壮一交遊録	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 宗教と文化	6. 最初と最後の頁 4-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田庄太郎	4. 巻 40
2. 論文標題 岩下壮一の『神の国』読解における天使論	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 宗教と文化	6. 最初と最後の頁 36-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 加藤和哉
2. 発表標題 ケーベルの西洋哲学史
3. 学会等名 ケーベル会第1回研究大会(招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	樋笠 勝士 (HIKASA KATUSHI) (10208738)	岡山県立大学・デザイン学部・特命研究員 (25301)	
研究分担者	長野 美香 (NAGANO MIKA) (10272733)	聖心女子大学・現代教養学部・教授 (32631)	
研究分担者	桑原 直巳 (KUWABARA NAOKI) (20178156)	筑波大学・人文社会系(名誉教授)・名誉教授 (12102)	
研究分担者	島田 由紀 (SHIMADA YUKI) (20817142)	青山学院大学・国際マネジメント研究科・准教授 (32601)	
研究分担者	田中 久文 (TANAKA KYUBUN) (30197412)	日本女子大学・人間社会学部・研究員 (32670)	
研究分担者	上石 学 (KAMIISHI MANABU) (70349166)	聖心女子大学・現代教養学部・准教授 (32631)	
研究分担者	山田 庄太郎 (YAMADA SHOTARO) (80781939)	聖心女子大学・現代教養学部・准教授 (32631)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	黒住 眞 (KUROZUMI MAKOTO)		
研究協力者	川本 剛史 (KAWAMOTO TAKASHI)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関